

サステナブル・ファイナンス： 農業者と農林水産業にとっての新たな挑戦

元ドイツライファイゼン連盟農政部長 フォルカー・ピーターセン博士
(Dr. Volker J. Petersen)

環境問題や気候変動が深刻化する中、サステナビリティ(持続可能性)の考え方が企業経営に強く影響するようになってきました。サステナビリティとは、自然と調和し、社会的公正を目指しながら、経済効率を進める成長を意味します。持続可能性の概念は、ドイツでは18世紀に既に形成されていましたが、現在の複数の課題を前にまったく新しい次元を迎えており、それは農業経営にも関係します。その一例が、ブリュッセルのEU本部が制定した銀行と融資に関する規制であり、これは持続可能性の原則を企業の資金調達に適用するものです。

サステナブル・ファイナンスとは？

この規制の主な目的は、銀行が持続可能なプロジェクトに資金を振り向けるインセンティブを生み出すことです。例えば、再生可能エネルギーへの融資は、液化天然ガスを使う火力発電所よりもはるかに魅力的になります。

EUタクソノミー(持続可能な経済活動の分類)の制定は、2050年までに気候中立なEUを実現する包括的な目標に向けた重要なステップであり、以下の目標があります。

- ・気候変動の緩和と適応
- ・水資源の持続可能な利用と保全
- ・循環経済への移行
- ・生物多様性とエコシステムの保全と回復

タクソノミー規則は、これら目標の達成にどの投資が貢献するかを定義し、さらに一定規模以上の銀行を含む企業に、持続可能な活動について透明性のある報告を義務付けています。また、「グリーンボンド」の枠組みも提供しており、投資家がサステナビリティにかなった投資を透明に識別できるようにしています。今後、銀行は、持続可能なセクターに与信をより集中させなければならなくなっています。

農業分野でも全面的な取り組みが必要

農業団体は、農業をタクソノミー規制に含

めるよう農政活動しています。もし規制に組み込まれないと、銀行は農業への投資を持続可能性の観点から正しく分類し、農業経営向けの持続可能な金融商品を開発するのに問題を抱えるからです。銀行監督当局により、銀行は融資の際に持続可能性リスクをよく考慮すること、つまり環境、経済、社会(ESG)リスクのチェックが求められています。このESGリスクの格付けには各業界の特性に合わせた基準を銀行は使用し、その基準は各業界団体が作成しています。農業は、特に畜産や畑作での温室効果ガス排出量が大きく、他産業に比べてESGリスクは高く分類されます。

しかし、ここには移行(トランジション)リスクも含まれています。これは、銀行が個別経営体の将来の生産の方向性をどの程度信頼しているかの問題であり、貯蔵施設などの長期資金調達を要する領域で非常に重要となります。

さらに「ESG評価スキームESG-Bewertungsschema」では、まず銀行はその業界に共通する固有のリスクを特定した後、それぞれの顧客の個々のリスクに、より密接に対処する必要があります。つまり、銀行は、業界団体が示す基準のESGリスクがその顧客にあるか、また適切な対策でそのリスクは大幅に削減されるかを精査します。

サステナブル・ファイナンスは農業部門にとっての大きな挑戦ですが、うまく克服するための準備も十分に行われています。農林水産業は各部門の協同組合の支援のもと、持続可能な経営管理とその継続的な改善を進めています。こうした取り組みにより、銀行が同セクターの重要性を認識し、その将来性を確信することがますます重要になっています。

<翻訳記事>

・文責：理事研究員 安武 篤、主任研究員 小田志保

(Dr. Volker J. Petersen)